



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：シーア派導師への死刑判決を受けて東部州でデモが発生

10月15日夜、東部州のカティーフ市において、同日にシーア派導師のニムル・バーキル・ニムル師に死刑判決が下ったことに抗議するデモが発生したようだ。デモ隊はカティーフ市内のアワミーヤ地区から同市中心部にかけて行進。デモの規模は、1000人から数千人と諸説ある。現在のところ、死傷者の発生については確認されていない。

死刑判決が下されたニムル師は、シーア派の導師であり、同派の最高位であるアーヤトッラーの称号を持つ。サウジ政府に対して批判的な言説をすることで有名であり、2011年に東部州でのデモを扇動した容疑で、2012年7月、治安部隊との銃撃戦の末、拘束された。同師が拘束された際には、数千人規模のデモが発生し、治安部隊との衝突によってデモ隊側の2名が死亡している。

ニムル師の裁判は、テロ問題を扱う特別犯罪裁判所で審議されていた。10月15日に下された死刑判決では、デモの扇動に加え、指名手配されているテロリストの逃走の補助、国家指導者への不服従、治安部隊への武器の使用などについても有罪とされた。判決に不服がある場合は、判決から30日以内に控訴することができる。

評価

15日夜に発生したデモについては、16日15時現在（日本時間）、国内外の大手メディアの報道では確認されていない。TwitterやFacebookなどのソーシャルメディアでは、15日のデモの様子を写した写真や動画が多数流通しているものの、中には2012年7月の際のデモの写真も混在しており、デモの規模などについては依然として不明な点が多い。

ニムル師への死刑判決については、控訴が可能なため、まだ刑が確定したわけではないものの、仮に判決の見直しがあっても重刑に処される可能性が高い。東部州では、2011年の「アラブの春」以降も散発的にデモが発生しており、最近の治安情勢も流動的である（最近の東部州情勢については[「サウジアラビア：東部州の治安情勢が不安定化」『中東かわら版』No.146（2014年10月2日）](#)を参照）。特に若者を中心とする東部州のシーア派住民からの人気が高く、同地域のデモにおいて主導的な役割を果たしてきたニムル師に重刑が下されることは、サウジ政府と東部州の住民との間に、深刻な亀裂を生みかねず、今後の治安情勢に大きな影響を与える恐れがある。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799